

Kinari

四季折々の食の物語を紡ぐ、暮らしの情報カタログ。

[きなり]

| | | | | | |
|----------|------------|----|----|----|----|
| お届けカレンダー | 2009年 8月1回 | | | | |
| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
| 注文用紙提出 | 7/27 | 28 | 29 | 30 | 31 |
| 商品のお届け | 8/3 | 4 | 5 | 6 | 7 |

別チラシ「くらしと生協」など一部お届け日が異なる商品もあります。
8月3日～8月28日お届け分は9月7日の引き落としになります。

「焼き場で骨が出てくるのを待っていたんですよ。すると、窯から出てきた台座の上に骨がない。4cmくらいの破片が点々としていただけでした……」
最愛の母の骨まで奪っていた原爆。それまで気持ちの奥に閉じ込めていたやり場のない怒りが一気に

噴き出した。「絶対許さんぞ！ 言わんでおくものか！ ずっと心に誓ったんです」
いまや多くの言語に翻訳され、世界各国で読まれている『はだしのゲン』。「最近日本もきな臭くな

「絶対に……絶対に許さんぞ！」

「ゲン」から届いた 平和のメッセージ。

食べ物を作る者は、強い！

1945年、広島市に投下された原子爆弾。漫画家・中沢啓治さんの被爆体験に基づく作品『はだしのゲン』には、食糧難、原爆投下後の惨状、混沌とした町の様子など当時の庶民の姿がリアルに描写されている。戦後驚異的な復興を遂げた一方で、「飢え」のリアリティや「平和」の意味など、本質的なことを私たちは見失いつつあるのではないかと。戦後64年を迎える日本人に、改めて中沢さんは「平和」への願いを投げかける。



漫画家
中沢啓治さん

1939年広島県生まれ。1963年に漫画家デビュー。1968年に『黒い雨にうたれて』、1973年に週刊少年ジャンプにて『はだしのゲン』を連載開始。『はだしのゲン』は3度実写映画化、2度アニメ映画化、2007年にはドラマ化されている。2002年に第14回谷本清平和賞を受賞。



『はだしのゲン』は、主人公・ゲンが父と妻畑で作業する場面から始まる。「何回も踏まれることで逞しい根を大地に張り、豊かな穂を实らせる麦のように生きる」との父の教えがいまの私の支え（中沢さん）

118273
はだしのゲン(全10巻)
中沢啓治著
6426円(本体6120円)
改めて平和を考えるバイブル
●18.3×13cm ●各260ページ ●1975年5月刊 ●汐文社 ●定価7140円

インターネットでご注文の場合、「注文番号記入」でお申し込みいただけますようお願いいたします。

戦時中を振り返り、「とにかく辛かったのは飢えてしたね」と中沢さん。「いやあ、毎日毎日、飢えてたねえ。さつまいものツルやイナゴがご馳走だったよ」

「輸入が止められたら、どうなる？」

母に連れられ、郊外の農家に食べ物分けてもらえるように頼みにも通った。「けんもほろろでねえ。なげなしの着物を持っていても情け容赦はなかった。おふくろは必死で泣きついて、何回もお願いです。分けてください、分けてください……。その姿を見て、幼いながらに惨めで仕方なかった」

「食べ物を作る者は強い。中沢さんが自らの壮絶な飢えの体験から掴み取った教訓だ。「日本は飽食だなんていうけれど、ぼくは自給できななきゃ絶対ダメだ」と思う。絶対ね。輸入すりゃいい、なんて安易な感覚じゃダメ。止められたらどうなるんだ。みんなで農家をもっともっと盛りたてて、たくさん作って国内で賄っていかなくちゃ。中沢さんの言葉に、力がこもる。「ぼくの好物は、米の飯。白い飯と味噌汁、沢庵。それだけを腹いっぱい食べられれば、最高ですね」

組合員の
**くらしを
応援!**

くらし応援
特別価格
特別価格で
ご案内。ぜひ
お見逃しなく。

夏のおくらしに
役立つ商品が
**今回、
お得です!**
6~7ページ

パルシステム
今週の一品
18ページ
101 産直牛びーふ
サイコロステーキ
徳用パック

同時に
お届け
しています。
酒屋さん 「牛肉&豚肉」 「お盆休み」

2009パルシステム
100万人の食づくり運動
耕せ!
日本の食と農

●「Kinari」をはじめ、いっしょにお届けしているチラシ類も含めたすべての紙類を回収しています。保冷箱に入れて、お戻しください。
★ギフトおよびスクエア等、一部のカタログは利用ポイントの対象外となります。お問い合わせは、各センターへ。